

JPI-8S-5-2006(第1刷)の正誤表

(計装設備機維持規格)

(2008年10月20日)

頁	該当箇所	誤	正
4	1.2 a)	I 表1.2.2、各検査 <u>手法</u> 例を・・・	I 表1.2.2、各検査 <u>設定</u> 例を・・・
5	I 表1.2.1 2 高圧ガス保安法 検査対象	・ <u>温度計自動制御装置</u>	・ <u>温度自動制御装置</u>
6	I 表1.2.2	I 表1.2.2 各検査 <u>手法</u> 例	I 表1.2.2 各検査 <u>設定</u> 例
7	1.4.2 a)	なお、定期検査には、法規などで定められている検査と、 <u>所有者が独自</u> で定めた周期で行う検査があり、	なお、定期検査には、法規などで定められている検査と、 <u>各事業所が自主的</u> に定めた周期で行う検査があり、
11	3.3	3.3 補修後の機能確認 <u>試験</u> ・・・作動検査などを行い機能を確認する。 <u>なお</u> 、使用開始後の運転条件において・・・	3.3 補修後の機能確認 ・・・作動検査などを行い機能を確認する。 <u>更に</u> 、使用開始後の運転条件において・・・
12	6.2 a)	設備保全管理業務 <u>システム化のフローチャート</u> を I 付図2に例示する。	設備保全管理業務 <u>関連のデータ連携</u> を I 付図2に例示する。
13	I 付図2	I 付図2 計装保全管理業務の <u>フロー</u> 例	I 付図2 計装保全管理業務 <u>関連データ連携</u> 例
16	2.2	国内各社の発生度評価方法は、各社の設備及び設備維持管理状況に差異があるが、腐食速度、各損傷形態ごとの履歴、特性、使用環境などについて評価して <u>重要度</u> を定めることとしている。	国内各社の発生度評価方法は、各社の設備及び設備維持管理状況に差異があるが、腐食速度、各損傷形態ごとの履歴、特性、使用環境などについて <u>評価して定める</u> こととしている。
19	付属書A表1 A危険度評価点	<u>物件</u>	物性
41	3.1目視検査	<u>II.4表4.1</u>	<u>II.4表2.1</u>
41	3.2精密検査	<u>II.4表4.2</u> に従い、…………… <u>II.4表4.3.1～II.4表4.3.3</u>	<u>II.4表2.2</u> に従い、…………… <u>II.4表2.3.1～II.4表2.3.3</u>
42	II.4表4.3.1	<u>II.4表4.3.1</u>	<u>II.4表3.2.1</u>
42	II.4表4.3.2	<u>II.4表4.3.2</u>	<u>II.4表3.2.2</u>
42	II.4表4.3.3	<u>II.4表4.3.3</u>	<u>II.4表3.2.3</u>
48	3.2精密検査	<u>II.5表2.3</u>	<u>II.5表3.2</u>
48	II.5表2.3	<u>II.5表2.3</u>	<u>II.5表3.2</u>
52	II.6表2.3.1 弁座漏れ量検査	<u>弁座漏れ量検査</u> <u>JIS B 2007</u> (工業プロセス用調節弁— <u>試験及び検査</u>)	<u>弁座漏れ検査</u> <u>JIS B 2005-4</u> (工業プロセス用調節弁— <u>第4部：検査及び試験</u>)
54	II.6表3.2 検査項目 3	緊急遮断弁の <u>弁座漏れ量検査</u>	緊急遮断弁の <u>弁座漏れ検査</u>
62	II.7表3.2.1 2 酸素 設定値	18% <u>以下</u>	18% <u>以上</u>
65	2.温度スイッチ	<u>サーモウエル</u> に関しては……………	<u>保護管</u> に関しては……………
86	II.10表2.4.4	<u>JEIDA-63-2000</u> ：産業用情報処理・制御機器設置環境基準(社団法人電子情報技術産業協会) <u>IO10203.EPS</u>	<u>JEITA-IT-1004</u> ：産業用情報処理・制御機器設置環境基準(社団法人電子情報技術産業協会)
87	参考文献 [3]	<u>JEIDA-63-2000</u>	<u>JEITA-IT-1004</u>